

映画

「手に魂を込め、歩いてみれば」

上映会



日時：2026年9月26日(土)

上映時間 ①10:00②14:00③18:00

場所：真庭市立中央図書館 3階映像シアター

参加料金：一般1,500円/ 18歳以下500円 定員各回52名

上映時間113分 / 予約不要/ 16:10頃よりトークイベント開催

岡真理氏トークイベント & 写真展同時開催

「今ここの戦争を撮って世界に見てもらう必要がある。 苦しみをすべて記録するの。 他に誰がやる？」

ーファトマ・ハッスーナ



イスラエルによるガザ攻撃が続いていた2024年、イラン出身の映画監督セピデ・ファルシは、緊急に現地の人々の声を届ける必要性を感じていた。しかし、ガザは封鎖されており行くことは出来ない。そこで、知り合ったガザ北部に暮らす24歳のパレスチナ人フォトジャーナリスト、ファトマ・ハッスーナとのビデオ通話を中心とした映画の制作を決意する。

以後、イランからフランスに亡命したため祖国に戻れない監督と、監督の娘と同じ年齢で、ガザから出られないファトマとのビデオ通話が毎日のように続けられた。そして、ファトマは監督にとってガザを知る目となり、監督はファトマが外の世界とつながる架け橋となり、絆を築いていく。

■岡真理氏によるオンライントークイベント 16:10開演

「ガザとは何かーガザ「共時者の責任」いま、文学の力で伝える」

パレスチナ、ガザの問題の本質、歴史的文脈について
パレスチナ、ガザで起きていることを文学の言葉で伝える意義とは

岡真理（おか・まり） 早稲田大学文学学術院教授、京都大学名誉教授。1960年生まれ。エジプト・カイロ大学に留学、在モロッコ日本国大使館専門調査員、京都大学大学院人間・環境学研究科教授を経て現職。専門は現代アラブ文学、パレスチナ問題。近著に『ガザとは何か～パレスチナを知るための緊急講義』（大和書房）。著書多数。



■同時開催 ファトマ・ハッスーナ写真展

ファトマ・ハッスーナ Fatma Hassona （映画『手に魂を込め、歩いてみれば』に登場）

ガザ出身のパレスチナ人フォトジャーナリスト。応用科学大学でマルチメディアを専攻し、卒業。タメル・コミュニティ教育財団でフォトグラファーとして勤務する傍ら、文学グループ「ヤラアト・アル・アダビ」の編集チームメンバーとしても活動した。その後、ウーマンズ・アフェアーズ・センター・ガザ(WAC)で写真家として活動し、プラン・インターナショナルの「She Leads」プログラムにも参加。彼女の作品はガザ各地で展示され、多くの人々の共感と関心を呼んだ。2025年4月16日未明、ガザ市東部アル・トゥッフアーハ地区の自宅がイスラエル軍の空爆を受け、命を奪われた。25歳になったばかりだった。



～アリさんのエスニック料理出店～

アリさんは、マレーシア人の夫と二人の子供を持つ日本人イスラム教徒。
真庭市在住。マルシェなどでエスニック料理を販売しています。
イスラムの食文化にふれる、ハラール料理をぜひ味わってみてください。

共催： ガザとつながる市民の会/真庭市立中央図書館 0867-44-2012